

# 表紙の“人” Mr.フィギュア

今月の一言

大人の恋は色々ある



先日、女性社員からふきのとうをいただき、早速かみさんがレシピ本を見ながら調理、独特の苦味を味わいながらいっぱい食べた方がいいが、ちよつと不安になりネット上で調べると、やはりアクが強く食べ過ぎは肝臓に良くないとある、これは「いカンゾー！」なんちゃって…。

さて今月の表紙は最近見かけなくなった鯉のぼり。ある旅先で見つけ、そのダンスを踊るように泳ぐ姿に感激した時の一枚。昔は端午の節句が近づくると新緑の山々映える鮮やかな鯉のぼりに心が洗われたものです。鯉のぼり（鯉幟）の原型は江戸中期に登場したといわれる。庭に立てられていた長細い旗「武者のぼり」によく描かれる「鯉の滝昇り」が、現在の吹き流し型に変化したらしい。小生は子供が小さい時、目玉のぎよろっ

とした岡本太郎の奇抜なデザイン「太郎鯉」を無理して買って、ペランダにあげたのを思い出す。あの絵は今思えば鯉というより、深海魚ではなからうか！

実は鯉には、特別な思いがある、父は鯉が好きで自宅の庭に池を作り錦鯉、ドイツ鯉（間違えてインド鯉と言った？）黄金（金カブと呼んでた）がいた。時々掃除を手伝い、水を抜いて、鯉をすくったりした。また、大きな鯉が沢山いる池にも連れて行ってくれた。すごい口で餌を食べる姿は圧巻で、そんな情景をはっきり覚えていゐる。父は尾張一宮という土地柄、繊維業を立ち上げ、長年、会社経営に没頭して来た。池の鯉はそんな日々の苦勞を癒し、ステイタスの象徴でもあったのかもしれない。しかしその後、家に池があると不幸になると言われ取り壊すことに

なった。父は3年前に突然他界し、その頃の話はもう聞けないが、生前ゆつくり話したかったなど、今更ながら思う。

さて中国の後漢書には「黄河上流の急流にある門を登ることができた鯉は竜となる」との伝承があり、成功へ至る関門、名づけて登竜門となすとある。なるほど、そういうえば鯉と竜、ヒゲもウロコもあってどこか似てる気がしてきたぞ。鯉の滝登りに、よく似た言葉で鰻登りがあるが、その違いはこ

**Mr.フィギュア** 本誌の表紙に登場した一見あやしい、どこか可愛い、中年男性。愛犬チャーチルとはいつとも一緒。その正体は、実在するビジネスマン恒川憲一氏をモデルに作られたフィギュア。月刊正論の表紙とこのコラムで、厳しく優しく、ダジャレをオシヤレに織り交ぜた温かいメッセージを、読者のみなさまに届けている。

存知であろうか？ 鰻登りとは止まることなく上がっていく様、まさに青天井。片や鯉の滝登りは一時の際立った勢いを表す。例えば「彼の成約獲得の勢いはまるで鯉の滝登りだ」など、瞬間的に成長すること、混同にご注意を！もしや鰻を轍にしたらもつとパワフルではと考えたが、あの黒いヌルヌルが大空をニヨロニヨロしたらブーイング間違いなしだな。いずれにせよ鯉のぼり、絵のイメージを立体にする斬新な発想、最近外国



恒川憲一氏 つね  
かわ・けんいち クリ  
エイター。株式会社

シーエムバー代表取締役社長。大阪芸術大学デザイン科を卒業後、広告代理店勤務を経て独立。15年間、絶えずフィギュアを持ち歩き撮影し、ダジャレを考えている。このコラムの真の執筆者。著書に『フォット、一息』（セルバ出版）。

企業に押されがちな日本の技術開発も鯉幟に学び、鰻登りといきたいですね。

さてプロ野球も開幕し、昨年のセリーグはカープが面白そうに泳いでるまさに鯉の滝登りでした。おっと待てよ、鯉が滝を登って登竜門を抜けたら、竜になるのではなかったか？ であるなら低迷中の地元名古屋のドラゴンズ、さあ菖蒲の5月だがね、こらでちまき返して、勝利のコイダンスを情熱の端午で踊ろみやあ！ そして本物の竜になって屋根より高く登ってちょうよ！ 無理だわね…。

P・S 表紙タイトルの「大人の恋は色々ある」とは全く関係ないコラムになりましたが、それはヒゴイと言わないで、さらっと吹き流してください！ ではホームペー지의チェックもよろしく。「ミスターフィギュア」で検索。